

當世新聞集

芳春筆

西垣文庫 特
文庫 10
7343
1



大いなるおどろき
 中目のおどろきのあんな會考をちむるり天
 酒かうまうかひあなをまをまをまを
 いと生息の天をうが
 座中をえ世一を出せ
 座のあつとさあうがを
 上ので小今と言ふはを
 うけいあ一今日と
 座中をえ世一
 子徳事りの大一座
 座へんんことおへども
 座中もえられ
 お座まりの



座のきこまをとおるはうの
 扶掖してはをへて
 舞きおのの権の
 かま坐徒
 さまのあて
 二条十津のあひ
 一糸五沙の浪貨
 ひろいあつて
 一や二や三や海を
 ちむちむのあ見連
 持柄は
 是の向きの長衣も
 入の私家扱て日月の裁子と浪舟の



二二二二二

二二二二二



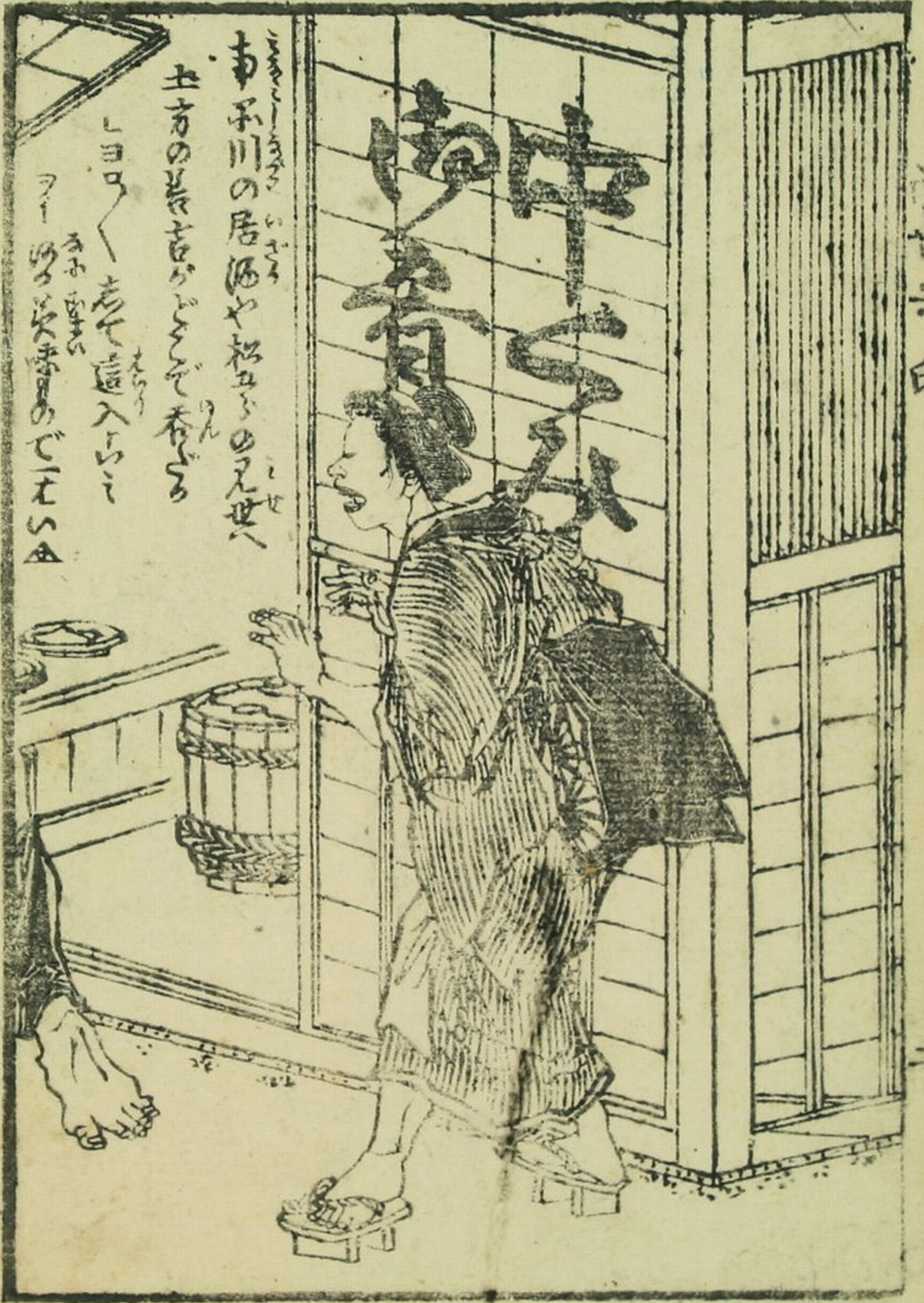
此の石は... 土の... 止れ... 四月の...

三河... 藤原村百姓... 土の... 止れ... 四月の...



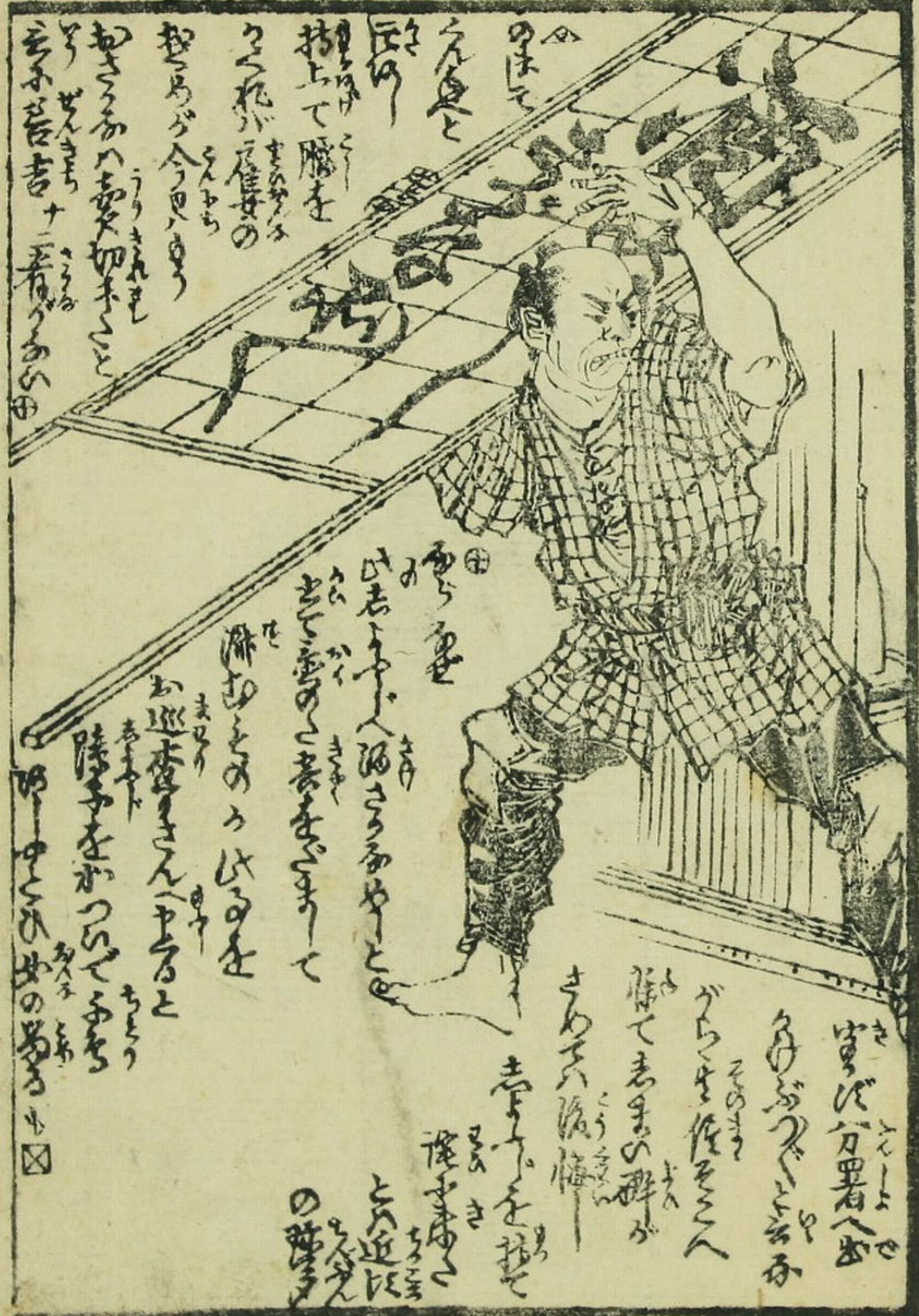
の... 三河の... 合柳の... 佐作... あり... あり... あり...

の... 佐作... あり... あり... あり... あり...



中世の生活
中世の生活は、
土方の生活と異なり、
シヨロ〜とて遠くへ

シヨロ〜とて遠くへ
マイ〜とて遠くへ
マイ〜とて遠くへ



中世の生活
中世の生活は、
土方の生活と異なり、
シヨロ〜とて遠くへ

中世の生活
中世の生活は、
土方の生活と異なり、
シヨロ〜とて遠くへ

中世の生活
中世の生活は、
土方の生活と異なり、
シヨロ〜とて遠くへ



皇
道
の
考

う
ち
ま
う
そ
う
あ
く
み
し
り
あ

評
判
各

二



上
舟
さ
ら
し
て
死
や
ま
ち
山
田
の

て
あ
の
を
洗
ひ
水
の
を
入

い
ま
岩
古
の
ひ
と
り
夜
い
の

心
連
り
の

以
治
十
年
の

二
月
十
二
日
の

山
古
の
ひ
と
り
夜
い
の

岩
古
の
ひ
と
り
夜
い
の

そ
の
門
は
の
ま
け
は

尾
の
ひ
を
は

ひ
き
ま
を
は

あ
ま
ら
い
の
道
う
づ
を
あ
ら
す
水
さ
三
三
寸
の
水
を
と
つ
て
わ
ら
い
世
は
じ
き
水
を
洗
ひ
粉
一
小
馬
十
四
五
斤
花
布
の
核
水
を
と
つ
て
岩
古
の
ひ
と
り
夜
い
の
ま
を
ひ
ら
く
と
あ
け
の
み

三



今頃のうき世の
 装束の流行も事や
 五休入道つらおあぢや
 お大もきつて一月のたをみ切

四や元夫そら
 とこ下りお姫ま

是郎人の店子の夫を
 ぞち小つま
 まんせ



夜ふけて暮る洋りの内あじや
 二月十日の空瓦人常着下り
 俄小唄ふきこおお急て来り
 路まづれ茶室はあつらへり
 け下りて伊を奉る店子の
 人別を安んず借せしおまきな
 女んとおは地のちを渡りこれぬ
 月けりうぬまはるまが店おはなれぬ
 たるこ今春をぬぬーやーこまきこ
 之のそのれぬ重徳店うけ人を
 引つれをぬぬーとてお老家の言入
 重もわんもく存事と産死をぬぬーとてお人

小町小町



東京三年宵や
 赤やと赤舟やの二受
 日暮丁の小ころを
 毎年のふかしのふかしの
 淡方どん近の阿茶書お
 世とあさんさ天中



うつをばしをばしをばし
 左に足元お振入まども下
 ばし足元お振入まども下
 の身はほまの申小ころの
 小使小通ううねめめま
 よる下の空二階でをその
 渡客の大板まじごまよる
 ままごまけつるお小ころの
 きてらるる天下へおまよる
 上りもつげらるるままごまの
 のころけたままごま下下た
 うの初うあーらんをすくんと

Faded, illegible text in a traditional East Asian script, likely Chinese, covering the entire page. The text is arranged in horizontal lines, typical of a manuscript or printed book page. The paper is aged and shows signs of wear, including discoloration and some staining.

